サンフランシスコ・ベイエリアにおける環境に配慮した輸送手段の普及に関する取組について

平成２３年５月１０日
愛知県サンフランシスコ産業情報センター
駐在員　佐藤　賢児

全米の中でも積極的に環境問題に取り組んでいると言われているカリフォルニア州で、サンフランシスコ市とその周辺都市を合わせたベイエリアでは、「ベイエリア・EV コリドール・プロジェクト」や、サンフランシスコ市とサンノゼ市との連携により Better Place（ベタープレイス）社によって進められている「バッテリー交換式電気自動車（EV）タクシー運行計画」など、環境に配慮した様々なプロジェクトが推進されています。

このたび、愛知県サンフランシスコ産業情報センターは、4 月 6 日にサンフランシスコ市のフェリー・ビルディングで開催された「A Green Transportation Workshop for Bay Area Business」に参加しましたのでその概要をご紹介します。

＜BC3（気候変動に関するビジネス協議会）とは＞

このワークショップは、「気候変動に関するビジネス協議会（Business Council on Climate Change ：以下「BC3 」)」と「サンフランシスコ・クリーン都市連盟（San Francisco Clean Cities Coalition)」との共催により開催されました。

ワークショップ会場の様子

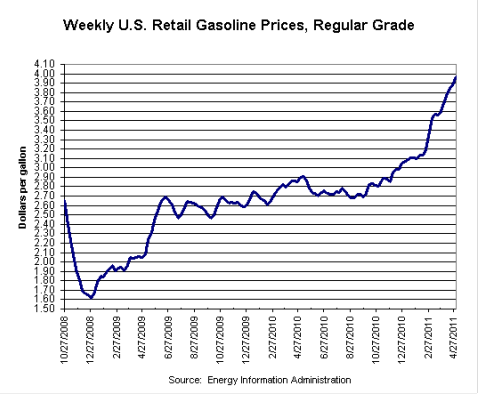
BC3 は、企業活動における温室効果ガス排出削減に賛同した 100 以上のベイエリア企業で構成されている団体です。世界中の企業や行政に対し、地球温暖化防止のための有意義な取組みを提供することを目的とし、国連グローバル・コンパクト、サンフランシスコ市などの関係機関により 2007 年に設立されました。５つの方針（①温室効果ガス削減のための内部統制の実施 ②ベイエリアにおける環境問題に取り組むリーダーであること ③環境施策立案者に対する各種提言 ④環境問題解決に向けたベイエリア企業間の協働 ⑤情報開示）の下、Gap（衣料小売り）や Gensler（建築デザイン)、Google（インターネット検索)、PG&E（公共電力・ガス）など、様々な業種のベイエリア企業がこの方針に賛同し活動しています。

＜環境配慮に対する関心が高いベイエリア企業＞

最初の発表では、サンフランシスコ市環境局の担当者から、現在、市の公用車を天然ガスやバイオ燃料などの代替燃料車へ切り替えており、これらの取組みをサンフランシスコ国際空港や市内の全てのタクシーにも拡げていることや、企業が社用車を代替燃料車に切り替える場合、税控除などのインセンティブが受けられることなどが紹介されました。

近年、米国内でもガソリン価格の上昇傾向に伴い燃費のよいハイブリッド車の人気が高まっており、また、補助金などのインセンティブを受けられるということもあって、企業から

の出席者も熱心に発表を聞き入り、発表後も活発に質疑応答が交わされていました。



U.S.Energy Information Administion の HP より

＜ベイエリア企業による環境配慮型輸送手段への取組＞

ベイエリア企業の環境に配慮した輸送手段への取組の一例をご紹介すると、北カリフォルニアの 2/3 以上の電力・ガスを供給し、20,000 人以上の従業員を擁する PG&E は、2015 年までに全ての社用車を代替エネルギー車に切り替えるという目標を掲げています。

また、企業の“Go Green（環境にやさしい取組み）”に向けたコンサルティングを行っている EVadvise 社からのプレゼンテーションでは、「Electrify Your Business：A Guide for Moving Forward with Electric Vehicles（電気自動車への移行に向けた指針）」が紹介されました。この指針は、BC3 と BAY AREA COUNCIL（BAC） が、EVadvise 社の協力により作成したもので、サンフランシスコ・ベイエリアにおける電気自動車の普及とそのインフラ整備の促進を目的としており、ビジネスにおける電気自動車の導入方法や充電設備の設置方法などを分かりやすく解説しています。

（BAC によるプレスリリース）

→ http://www.bayareacouncil.org/news/

＜Google による環境貢献活動＞

今回のワークショップでは、インターネット検索エンジンの大企業である Google からも発表がありました。Google は「Google.org」という社会貢献部門の活動を通して、クリーンエネルギーの技術的な解決策を見つける取組みを行っているそうです。では、具体的にはどのような内容なのでしょうか？

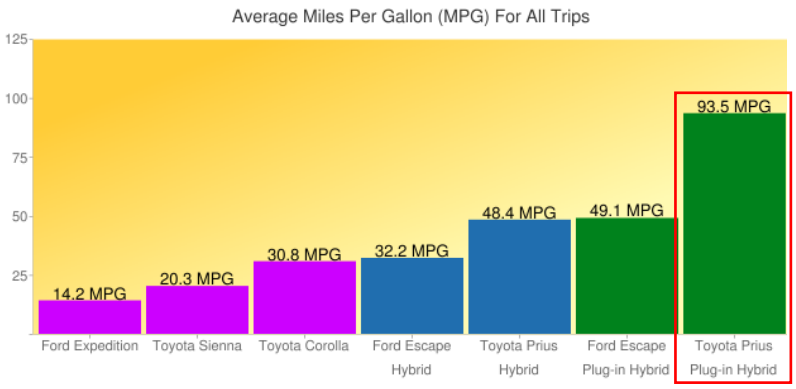
Recharge ITﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄで使用された Prius

Google.org は、「Recharge IT」という CO2 排出量やガソリン使用量を削減し、プラグインハイブリッドカーの電気供給の安定化を目的としたプロジェクトを実施しています。2007 年に発足したこのプロジェクトは、従来型のプリウスを大きめのバッテリーを掲載したプラグインハイブリッドカーに改造し、Google の従業員に通勤などで実際に走行してもらい、燃料使用量や運転のクセ、バッテリー残量などの情報を収集するというものです。

走行実験を行った結果、このプラグインハイブリッドのプリウスの燃費は、他のハイブリッドカーと比較しても２倍近くの高燃費（93.5MPG≒39.7km/L / 全走行平均）を達成し、このプロジェクトの技術レベルの高さを証明する結果となりました。

また、Google 本社の敷地内には、プラグインハイブリッドカーや電気自動車用の充電スタンドが多数設置されており、従業員が電気自動車などの次世代自動車を購入しやすい環境を整備しているそうです。

今回のワークショップでは、環境に配慮した輸送手段の普及促進に向けたサンフランシスコ・ベイエリアの企業、行政などによる各種取組みが紹介されましたが、今後の更なる普及のためには、次世代自動車の導入コストに対するインセンティブや、充電スタンドなどのインフラ整備の拡充などが不可欠であることも指摘されていました。



Google.org の HP より

今後、サンフランシスコ・ベイエリアの企業や行政などが、これらの課題にどのように取り組み、また、今まで行ってきた様々な環境に配慮したプロジェクトを発展させていくのか、引き続き注目していきたいと思います。